

令和5年度 第1回長野市川合新田水源の取水方法等検討専門家会議
議事要旨

- ◇日 時 令和5年7月10日(月) 午後2時から午後4時まで
- ◇場 所 市役所第一庁舎7階 第1・2委員会室
- ◇委員出席者 委員5名 オブザーバー2名
- ◇傍 聴 者 報道機関6社
- ◇事務局等出席者 長野市上下水道局他 15名
- ◇公開・非公開 公開

◇議事内容

発言者	内 容
	<p>1 開会</p> <p>2 管理者あいさつ</p> <p>3 自己紹介</p> <p>4 座長選出 中屋委員を座長に選出</p> <p>5 議事</p> <p>(1) 報告事項</p> <p>ア 水道事業の概要について(資料1)</p> <p>イ 有機フッ素化合物の検出に伴う国の動向及び長野市の対応について(資料2)</p> <p>ウ 最近の国の動向について(資料3)</p> <p>標記について、上下水道局から説明し、一括で質疑応答した。</p>
委 員	PFASの人体に対する毒性についてわかる範囲で説明していただけないか。
事務局	PFASに係る環境省の専門家会議について(資料3のシート2参照)より、国のPFASに対する総合戦略検討専門家会議においても、PFASの毒性について協議されており、専門家の中でも意見が分かれている。国の食品安全委員会に置かれたワーキンググループにより評価されるものと考えており、現段階で事務局からは申し上げられない。
委 員	参考③.有機フッ素化合物の検出状況(資料2のシート7参照)より、このデータが今後のベースになる。PFOSとPFOAの合計であると思うが、それぞれの数値表を提示した方がよいのではないか。

事務局	この表は、合算値であるが、川合新田水源では PFOA は検出されていないため、PFOS 濃度と考えてもらってよい。
委員	PFOA も検出限界値以下であれば表の中で表示すべきである。 懸念事項は、1号井戸、4号井戸を停止することで、汚染されていない3号井戸等に PFOS が移動するのではないかと。可能であれば、取水は停止せずに揚水だけ行う。(公共用水域への) 排水はしないで水を溜めておくことができるのであれば、そのような形がよいのではないかと思う。
事務局	有機フッ素化合物の検出状況について、3号井戸においては、令和3年度の夏から秋にかけて 110ng/l の数字が出ており、季節変動と捉えている。令和4年度でも少し上昇している状況だが、この年は5号井戸の改修工事を実施した関係で濃度が変わったと考えている。井戸水をくみ上げて、何らかの処理ということも検討はしているが、有機フッ素化合物を処理できる方法はまだ確立しておらず、下水道を含め別の環境中に流すことは問題であると考えているため、現段階では揚水だけ行うのは難しいと考えている。
委員	3.これまでの長野市の対応(資料2のシート4参照)より、独自調査に関する井戸・環境水について、有機フッ素化合物の濃度は検出限界値以下でよいか。参考③.有機フッ素化合物の検出状況(資料2のシート7参照)と含めて考察していくべきと考える。
環境部	独自調査で実施した井戸・環境水の有機フッ素化合物の濃度は検出限界値以下であった。川合新田水源の500m程度の範囲内の市有施設で調査したが検出されなかった。
委員	3.これまでの長野市の対応(資料2のシート4参照)より、市内3箇所の給水栓とあるが、参考③.有機フッ素化合物の検出状況(資料2のシート7参照)では、2箇所の給水栓を表示している。3箇所のうちの2箇所をモニタリングしているという解釈でよいか。
事務局	市内の主要な水源から給水しているそれぞれの系統の給水栓から3箇所調査しており、そのうちの1箇所の給水栓で PFOS が検出され、追跡の結果、川合新田水源が原因であると判明した。参考③.有機フッ素化合物の検出状況(資料2のシート7参照)に表示している2箇所の給水栓は川合新田水源

	から給水している代表的な給水栓である。
委員	犀川浄水場等では PFOS は検出されなかったのか。
事務局	そうである。
委員	季節性を考慮し、濃度が高くなりそうな時期を選んでモニタリングしていき安全を図っていかれたらいいのではないかと思う。
	<p>(2) 協議事項</p> <p>地下水調査業務計画について (資料4)</p> <p>標記について、上下水道局から説明した。</p>
委員	一斉測水調査はいつ頃を予定しているのか。
事務局	豊水期は6月頃、渇水期は12月頃を予定している。 (豊水期は来年度となる。)
委員	(一斉測水調査の) 前倒しはできないのか。
事務局	まず、調査範囲の中で測定できる既存井戸がどれくらいあるのか確認し把握する。早い段階で情報が集まれば、次に進みたい。
委員	PFOS は季節変動するということで、夏から秋に濃度が高くなるというような話があったので、できれば令和5年9月ごろまでをお願いしたいと思う。
委員	(調査対象は) 深度40m以浅を抽出しているが、もう少し深い位置も対象としていけばよいのでは。
事務局	9ページ(既存資料収集整理:犀川左岸地質断面想定図)の断面想定図より、B層(砂礫層)には40m程度に遮水層が存在しており、帯水層が分かれている可能性があるが、ご意見を参考に検討していく。
委員	C層(粘性土層)よりも上部を重点的に調査するということがよろしいか。
委員	関連だが、長野市の焼却施設を建設する際、環境影響評価を行うにあたって

事務局	地下水調査を実施した。対象区域からは外れているが参考にして全体の地下水の動きを把握された方がよいのではないかと考える。
事務局	資料収集等の中に含め、検討材料にしたい。
委員	7ページ（既存資料収集整理：治水地形分類図）の旧河道についてももう少し旧河道の線があると思うので、文献をさらに調べる必要がある。また、できるだけ多くの井戸で一斉測水をしなないといい調査結果が得られないのではないか。
委員	先ほど（調査対象を）40m以浅と話していたが、もう少し幅を持たせてデータをとることで地下水の流れが見えてくるのでは。B層（砂礫層）の間にある遮水層が影響を及ぼしている可能性もあるので多めにとってもらい、必要でなかったら後で棄却する形はいかがか。
事務局	意見を参考に検討する。
委員	むやみに調査箇所を増やすと時間とお金がかかるから、何を知りたいのか要点をおさえて進めていくことが必要である。
事務局	調査井戸が固まってきたところで相談していきたい。
委員	ステップ2現状分析の水質分析は、今回の事案を踏まえて、PFOSに特化した測定ということでよろしいか。気になった点としては、なにか他に気になる項目があれば併せて測定しておいた方がよいのかと思う。その時の状況に応じてモニタリングされた方がよいと思う。
委員	PFOSの水質分析は、半径500mの範囲内と位置付けている。できれば7km ² 全体で調査をしてもらいたいと思う。
委員	コストの関係等もあるので、計画を立てて現実的な方向で進めていく必要がある。
委員	7km ² の範囲内で一斉測水する際、PFOSを分析するためのサンプルも採水し、今後必要になった場合に分析できるようにできないか。

事務局	関係部局の中で検討していく。
委員	降水量の調査について、豊水期と渇水期だけやるのか、連続的実施するのか。
事務局	降水の調査について、水質分析は独自の採水方法を考えている。また降水のデータにつきましては、アメダス等の雨量データを使って、継続的なものを収集していくような予定でいる。 (3) その他 第2回専門家会議の開催は、既存資料の収集整理等の結果を踏まえ、年内の開催を予定する。